

## 「心を耕す」

心を田んぼになぞらえた、心田という言葉がある。私たちの心は時に、草ぼうぼうで石がゴロゴロ転がった荒れ放題の田んぼになってしまう。荒れてしまった心田は、また一から土を掘り起こし、鍛錬するしかない。自分の心は、自分で耕すほかないのである。よく耕された、豊かな土地に蒔かれた種子のみが、多くの実を結ぶ。

(いのちの言葉 日野原 重明 より)

七十二候「水始涸(みずはじめてかる)」田んぼから水を抜いて、乾かし始め稲穂の刈り入れをする時期を表しています。稲作は、種籾選別・育苗・田起こしを経て田植となり、その後は水の管理や草取り、台風への備えなど様々な労力と配慮、時間をかけることで育ちます。この時期、陽の光を浴び黄金色に輝き、秋風に揺れる風景は収穫の秋と、実りの喜びを感じさせてくれます。

私たちの心も、田んぼと同じように手入れをせず放っておくと心が乱れ、不安や不満、嫌悪感で心が曇ってしまいます。上手く行かないことも、考えた通りに進まないこともたくさんあります。そんな時は、自分の状況を把握し苦しいこと、悲しいこと、不安な心の声に耳を傾けることが必要になると思います。焦らずゆったりとした時間を持ち気持ちに向き合ったり、音楽を聴いたり、美しい物を見たり、美味しい物を食べたりと気分転換をすることで、心にゆとりができ、次なる行動へと移せるようになるのではないのでしょうか。

子どもたちが生きるための根をしっかり張り、その子らしい素敵な実を付けられるよう、愛に溢れた眼差しや言葉の中で安心感を持ち過ごし、豊かな感性や表現、心を育む保育を行っていきたいと考えております。

クレイシュ保育園 園長 小清水 幸子

職員一同

## 10月聖句

あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。

ルカによる福音書 10章20節

## 10月主題

「やってみる」0歳

- ・保育者と一緒にさんびかを歌おうとする。
- ・戸外で身体を動かす遊びを楽しむ。
- ・まわりの様子を感じとりながら、いろいろなことをしてみようとする。

1・2歳

- ・保育者や友だちと一緒に賛美したり祈ったりする。
- ・友だちや保育者と楽しんで体を動かす。
- ・自然の中のおもしろさや季節の変化を感じ、様々な物に触れながら楽しむ。

## ～子どもたちの姿～

虫の声や色付く木々に秋の深まりを感じられる季節となりました。子どもたちが土作りや種まき、水やりなど世話をしてきた野菜が大きく育ち、赤しその収穫をしました。始めは力が入りすぎて破れてしまいましたが、優しく触れ茎を持つことを少しずつ理解し、綺麗に取ることが出来ました。「できた」と嬉しそうな表情を浮かべたり「なんだかいい匂いがする」と鼻に近づけたり、友だちにも「嗅いでごらん」と差しだし「ほんとだね」と笑い合う姿も見られました。見たり、触れたり、匂いを嗅いだりなどの実験は、面白さや不思議さを感じることで様々な心の育ちや学びに繋がっています。収穫した自然物を用い、これから製作や遊びのなかで活用していきたいと思っています。



### 【10月の讃美歌】

わたしたちのたべるもの

### 【10月のうた】

やきいもグーチーパー  
どんぐりころころ



	月	火	水	木	金	土	日
10月の予定表					1	2	3
	4	5	6	7	8 身体測定	9	10
	11	12	13	14	15 運動会	16	17
	18	19	20 避難訓練	21 検体提出日	22	23	24
	25	26	27	28	29 クレイシュ通信	30	31
	◎10月15日(金)は運動会になります。感染予防のためご協力お願いいたします。また詳細は手紙を配布いたします。						